

エンジョイ雪遊び

- 開催日 2019年1月5日～1月7日
- 会場 国立妙高青少年自然の家(新潟県妙高市)
- ディレクター名 小島菜奈子(ぴけ)

■キャンプのねらい

- 自然の中で遊ぶ中で、創造力、創意工夫する力を養う。
- 3日間の活動を通して「できた!!」の自信を持ち帰る

■同行スタッフ(キャンプネーム)

かりーな、まよ、りゅー、たけ
イアーゴ、とーちゃん、ラミ、みしえる

■活動内容

<1日目>
集合、移動
自然の家到着
雪遊び①

<2日目>
雪遊び② ソリあそび
雪遊び③ 雪の作品作り
夜の探検

<3日目>
雪遊び④
移動、解散



長いバスの旅を経て施設に到着！
さっそく雪遊びです。



ふわふわサラサラの雪に大興奮でした。



食事はバイキング形式。バランスを
考えて自分で取るものを選びます。



1日目の夜は、翌日の雪遊びの話をして就寝しました。



2日目。一晩で50cmほどの積雪があり、絶好の雪遊び日和に。



「雪遊び楽しむぞ!」「オー!」かけ声をかけてスタートです。



午前中のメインはソリあそび。爽快感がたまりません!



滑った後は、次のお友だちのところへ頑張ってソリを運びます。



全身雪まみれになって雪の感触を堪能する子たちもいました。



2日目になると子どもたち同士もとても仲良しに。



午後は班ごとに雪の作品作り。何を
作るか相談です。



スコップやバケツも上手に使いこな
していました。



完成！自分たちで作ったお気に入りの
作品です。



夜はキャンドルを灯した作品を観
に、探検に行きました。



雪に寝転んで空を見上げます。特別
な思い出になったかな？



最終日。スタート！のかけ声と共に
みんな雪にダイブです。



その後はみんなで雪遊び。雪だるま
も見事完成しました。



3日間頑張りました！またキャンプ
で会いましょう！

■キャンプのエピソード

「雪遊びおしまいにしない！」

キャンプの1日目。Aくんはゴーグルや手袋の煩わしさやウェアの着心地に慣れることができず、雪遊びにとっても消極的でした。「僕はお部屋の中で見ていたい。」との発言もあり、雪遊びはほとんどせずに見学しているほど。しかし、2日目3日目と活動を重ねるごとに次第にキャンプのお友だちと仲良くなり、ウェアや小物の装備にも慣れていきました。そして最終日。午前中の雪遊びを終えてAくん「おしまいだからお部屋に戻るよ。」と声を掛けると、「やだ！雪遊びおしまいにしない！」「僕はまだここで遊んでいたい！」との言葉。“せっかく雪遊びにきたのに…”と心配していたスタッフにとってはこれ以上なく嬉しい言葉でした。最初のうちは初めての環境への不安や慣れない装備に楽しむゆりのなかつたAくんでしたが、3日間の中で見事に成長する姿を見せてくれました。

雪の結晶

雪遊びの最中、子どもたちに雪の結晶の話をしました。子どもたちにたった今空から降ってきている雪に目を向け、そして雪の結晶を自分たちの目で見て欲しいという気持ちからでした。「雪には色々な形があって、お星さまみたいなやつとか三角形みたいなやつとか一つひとつ違うんだよ。」と話をすると、手袋やウェアに乗った雪を眺めて「見えた！」と目をキラキラさせて教えてくれました。ふかふかの雪に全身で埋もれて楽しむのも醍醐味ですが、様々な角度から雪を感じる経験をして欲しいと願っていました。四季のある日本で暮らしているからには雪遊びを楽しむだけでなく、雪そのものへの興味も持つてほしいです。みんなが次にまた雪と触れ合う機会があった時に今回のキャンプの思い出が活きることを願っています。